

目指す学校像	きれいな学校 輝く笑顔
--------	-------------

重点目標	1 ICTの活用による、主体的な学びと個別最適な学びの充実、基礎学力向上 2 安心・安全な学校であるための教育支援・教育相談体制と「自分たちで自分たちの生活をよくする」ための生徒の活動の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長に向けた学校・家庭・地域の連携 4 一人ひとりが力を発揮できる学校をつくるための教職員研修と業務改善の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日令和5年2月20日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○全体的に落ち着いて授業に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査、市学習状況調査の結果が市の平均と比べて低い。 ○学力向上の取組についての学校評価は、生徒が高いのに比べ、保護者のそれは低い。 ○基礎学力向上のための小・中連携「大久保学園」の取組が十分に実施できていない。 【課題】 ○主体的な学びのためのICTの活用について、組織的に研修に取り組み、全教員の技術を向上させる必要がある。 ○個に応じた指導を、授業中や「テスト対策」以外にも充実させる必要がある。 ○「大久保学園」の取組が形骸化しないよう、関係小学校と協議し、取組内容を精査し、より今日的課題に合ったものにする必要がある。	・生徒の主体的な学びによる学力向上 ・個別最適な学びの充実 ・小・中連携「大久保学園」の取組の充実	①主体的・対話的で深い学びの道具としてのICTの活用に向けて、ICT・学習担当による定期的な部会を中心に研究を進め、教員研修を実施する。 ②教職員が、主体的な学びのためのICT活用についての目標を設定し、実行する。	①「主体的・対話的で深い学び」のツールとしてICTを活用した研究(公開)授業を、すべての教職員が、学期に一度以上行えたか。 ②個々に設定した目標について、すべての教員が目標達成を実感することができたか。					
2	【現状】 ○学校評価「毎日喜んで学校に通っていますか」の質問に肯定的な回答をした割合は、生徒、保護者ともに81%だった。 ○昨年度の登下校の交通事故はゼロ、緊急搬送はゼロ、アレルギー緊急対応はゼロだった。 【課題】 ○生徒の主体的な活動、学校に来なければできない体験の場をさらに充実させることによって、生徒が「大久保中に来たい」と思う学校づくりを行う必要がある。 ○生徒の潜在的な心のゆれを早期に把握し、きめ細やかな支援を、組織的に行う必要がある。 ○事故がないことを当たり前と思わない教職員の危機管理能力の育成が必要である。	・「自分たちで自分たちの生活をよりよくする」ための生徒の活動の充実 ・生徒指導・教育相談の充実 ・危機管理能力を高める教職員研修の充実	①生徒主体の学校行事(体育祭・合唱祭)を実施する。 ②「自分たちで自分たちの生活をよりよくする」という視点に基づいた「生活のきまり」「タブレット使用ルール」見直しの取組、学級活動における話し合い活動を行う ①「心と生活のアンケート」の要面談者、「いじめアンケート」のいじめ被害・加害の両者に対する丁寧な面談の実施と、その後の対応を全職員で適切に行う。 ②学校内外の専門家、関係機関、保護者、地域との連携によって、生徒への指導・支援を組織的に行う。	・生徒、保護者の学校評価「毎日喜んで学校に通っていますか。」の評価が昨年度よりも向上したか。 ・「心と生活のアンケート」の要面談者数がどの学年でも3学期が、最少となったか。 ・いじめ被害・被害となった生徒が、加害・被害によらず、再度いじめに関わることがなかったか。					
3	【現状】 ○昨年度、学校運営協議会で、目指す生徒の姿に基づいて、本校の課題や改善策についての熟議を行うことができた。 【課題】 ○生徒、保護者、地域が「コミュニティ・スクール」であることを実感できるより具体的な方策を考え、実行する必要がある。	・「地域に開かれた大久保中」の取組の積極的な発信	①学校地域連携コーディネーターが窓口となって、地域の催しへの生徒の自主的な参加を促すとともに、参加の様子を積極的に発信する。 ②コミュニティ・スクールとしての取組を発信する。 ③学校ホームページの更新頻度を上げ、学校の取組を発信する。	①地域の催しへの生徒の参加が年間のべ10人以上となったか。 ②「学校運営協議会だより」を、年間3回発行することができたか。 ③ホームページの学校だよりの翌月掲載を確実に実行。生徒の活動や保護者向けの啓発内容を掲載することができたか。					
4	【現状】 ○市内の他校の業務改善の取組などを参考に、業務改善の取組を徐々に増やしている。 【課題】 ○教職員の働き方に対する意識を変革するとともに、ICTの活用や新しい施策への理解などで個々の努力に任せている現状を改善する必要がある。	・業務改善の実施	①教職員が、業務改善の目標を設定し、学期に一度、達成状況を振り返る。 ②教職員のニーズに応じた研修を実施する。	①個々に設定した目標について、すべての教員が目標達成を実感することができたか。 ②研修部会が中心となって、教職員のニーズの高い内容についての研修を6回実施することができたか。					